

鶴ヶ島市附属機関会議録

【開催概要】

会議名	令和6年度第3回南小・中学校 学校運営協議会
日時	令和6年11月29日（金曜日） 14時40分～16時10分
場所	南中学校 2階翔南ルーム
出席委員	宇津木委員、内野泰委員、大塚委員、佐藤孝委員、佐藤嘉委員、佐鳥委員、三浦委員、金泉委員、藤尾委員、廣田委員、黒川委員、鯨井委員、田嶋委員（南中校長）、小川委員（南小校長）
欠席委員	鈴木委員、高橋則委員、田中委員、内野昌委員、高橋宏委員、山口委員
事務局	南小学校 目黒教頭 南中学校 藤田教頭、長村事務主任
議題	（1）第2回学校運営協議会議事録確認 （2）令和6年度学校評価について
配布資料	・令和6年度鶴ヶ島市立南小・中学校 第3回学校運営協議会次第 ・鶴ヶ島市立南小学校 学校だより及び活動の様子、令和6年度全国学力・学習状況調査の概要と今後の取組について ・鶴ヶ島市立南中学校 学校だより及び活動の様子、令和6年度全国学力・学習状況調査の概要と今後の取組について ・令和6年度第2回学校運営協議会議事録 ・令和6年度学校評価の実施日程について（南小） ・南小学校学校評価 項目に関する取組等 ・令和6年度 南中学校学校評価について ・南中学校学校評価 項目に関する取組等 ・令和6年度第4回学校運営協議会の開催について（通知） ・学校教育に関する評価（学校運営協議会委員）（南小） ・令和6年度南中学校学校評価（学校運営協議会委員）（南中） ・かわつるだんちフェスタ（開催予告）
公開・非公開	公開
傍聴人数	0人
会議要旨	【報告】 ・教頭が学校の様子について報告した。 【議題】 （1）令和6年度第2回学校運営協議会議事録について ・確認した。 （2）令和6年度学校評価について ・南小・中学校から日程、項目に関する取組等の説明があり、評価を行った。

	【連絡】 ・ 地域・各団体の行事、活動予定を確認した。
--	---------------------------------------

【議事概要】

○会長あいさつ

本日の主な議題は学校評価についてです。従来はあまりこの場では説明していなかったのですが、よくわからないという声がありましたので今回は説明を交えながら課題を見つめたいと思います。

○校長あいさつ

<南中校長>

- ・ 本日はご多忙の中ありがとうございます。また日頃の見守りにも感謝申し上げます。
- ・ 二学期も授業日数が残すところあと17日、今年もあと1か月となりました。二学期は小、中学校とも大きな行事がありました。ひとつひとつ仲間と共に乗り越えて大きく成長し、その成果を日々の生活や勉強意欲につなげるべく全職員で取り組んでいるところです。
- ・ 中学3年生との面接練習の中で、社会体験チャレンジの経験から保育士を志望することや、中学校の自慢することとして地域ボランティアへの参加に積極的な人が多い、などの言葉を聞くことができました。貴重な体験の場を与え、育ててくれている地域の皆さんへの感謝を申し上げます。
- ・ 今のところは学級閉鎖等もなく元気に過ごしており、最後まで無事終わられるよう引き続きご理解、ご協力をお願いします。

報告

学校（児童・生徒）の様子

<南小教頭>

- ・ 5、6年生、連合運動会。今年度はバスにて移動。
- ・ 5、6年生の家庭科のミシンボランティア。
1グループに1人大人がついて手厚く指導することができた。
- ・ 就学時健康診断。来年度入学は59名予定。
- ・ 運動会は大接戦となった。
- ・ 南小中合同交流会。さつまいもの収穫。
- ・ 4年生、グリーンパークでのクヌギ植樹。1年生がドングリを拾って2、3年生が育てて4年生が植樹するという流れができています。
- ・ 2年生校外学習。3年生も校外学習は応援団さんと回った。
- ・ 修学旅行。天気にも恵まれた。

- ・全国学力・学習状況調査。国語は全体的に全国平均と同じくらい。算数については平均を全国と比較すると低いけれども個人内での伸びはある。一覧については学校評価の際に参考にさせていただければと思います。

<南中教頭>

- ・英語スピーチコンテスト。入賞はならなかったが頑張った。
- ・文化祭。総合学習での内容を取り上げた。1年生の福祉はこれから学ぶが、2年生は社会体験チャレンジの内容、3年生は国際理解についての展示等で来場者に体験してもらうかたちで行った。
- ・新人戦。剣道個人で県大会出場。
- ・生徒会役員選挙。プレゼンテーションソフトを使用して発表。
本物の投票箱を借りてきて投票。
- ・駅伝大会鶴ヶ島予選。明日の学校公開でも体育では駅伝を模した授業を行う。
- ・合唱祭。リハーサルは小学校から4～6年生を招いて見学してもらった。
今年度はプロの演奏の鑑賞もあった。
- ・3年生、幼稚園実習。
- ・地域でのボランティア活動。活躍の場を与えていただきありがとうございます。
- ・全国学力・学習状況調査の概要について。3年生は1年から3年にかけて伸びている。

<会長>

- ・中学校では質問紙調査の<生活について>の回答の数値が比較的高いのはよいことではないか。
- ・項目⑥「学校に行くのは楽しいと思いますか」の数値が悪くないが、本日授業を参観しても寝ていなかった。学び合い学習というものが寝るような環境ではないということならば、いいことだと思う。ここだけの取組ではないということだが、いい教育環境だと思う。

議題（１）

令和６年度第２回学校運営協議会議事録確認

<会長>

ここでは細かく取り上げませんが見ていただければと思います。

議題（２）

令和６年度学校評価について

<会長>

- ・いつもは日程を確認して評価用紙は持ち帰って、とやっていたがあいまいなまま

になってしまうところもあった。学校から説明を受けながら進めていきたいと思っています。

- ・小学校と中学校の項目は今回は同じです。
- ・細かく説明を求めていることや、こうしたらよいのでは？という提案が出たらよいと思う。

○日程について

<南小教頭>

- ・地域に対しては本日説明、回収させていただきたい。
- ・児童、保護者、職員には既に実施している。
- ・1月に集計して検討し、2月18日第4回学校運営協議会で結果報告の予定です。

<南中教頭>

- ・生徒は長欠生徒分がまだ集められていない。保護者は本日×切となっている。地域の分については本日集めたい。
- ・集計後は企画会等でもんで分科会で検討する予定である。

<会長>

手元に小学校、中学校分があると思う。項目ごとに進めていく。

項目1 私は、学校教育目標や教育方針を理解している

<会長>

- ・この項目についてはご自身で理解しているかどうかで評価していただきたい。
- ・学校がこれを行っているかどうか我々は正直分らない。

<南中教頭>

教職員の学校評価の結果は次回の学校運営協議会で報告予定です。

<会長>

目指す教職員像について、達成感はどの程度あるのか。若い先生が多いから難しいなどあるのか。像に対しての道のりは感覚的に今どのくらいなのか。知りたいところではあるが、難しいところなので次にいきます。

項目2 学校は、児童（生徒）のよさや可能性を発揮できる学級経営を行っている

<南小教頭>

- ・取組としては学校全体としては①くつそろえ②授業中の姿勢③人の話を聞く時の姿勢、を意識させている。
これは校長のおはなし朝会の時の講話や学校だよりでも話している。
各担任の方で日々の生活の中で意識させている。ただ伝えるだけではなくよい時

にはほめるということを徹底してやっており、担任からも校長からも児童をほめることで自己肯定感を高めている。

- ・質問紙調査では県の学力調査の中で出ている「学校の先生たちは自分の良いところを認めてくれましたか」ということについて、南小の5年生の値は90.2%、6年生は92.4%となっており、それぞれ2%ほどだが埼玉県平均よりは高い数値となっている。4年生は少し低い数値となっている。

<南中教頭>

- ・他の項目にもかかってくるような方策が全てこの項目に集約できるのではと思う。
- ・今年度の取組として挙げられるのは学年学級担任制を導入している。
三者面談等も担任ではない副担任がやったり希望の先生はいますか、という質問もしたりしている。
1年生に関しては担任を定期的に交代するという取り組みも行っている。
- ・小さな学校なので通常学級が6クラスしかない。
そのため教科は教員が学年をまたいで見ている。
委員会、部活動担当等もあり、教員がほぼ全員の生徒を把握する状況。
教職員全員がどの学級にもかかわっているという意識をもって進めているところである。
- ・質問紙の結果では「先生たちが自分の良いところを認めてくれた」という項目について埼玉県の平均とほぼ同程度の状況。3年生は少し高い状況。2年生は低くなってしまったが、どこも90%を超えているところである。
- ・「学級の友達が自分の良いところを認めてくれるか」という項目は3学年とも県の平均を超えているので、学級の雰囲気はかなりよいかと認識している。

<会長>

- ・質問の項目自体が、「だめだ」とも「こうしたらいいのでは」とも言いづらいところがある。
- ・小学校でいえばくつそろえや授業中の姿勢、人の話を聞く姿勢を意識してもらっている、中学校でいえば学年学級担任制ということで複数の先生たちで見るということを具体的に取り組んでいると理解した。
- ・こういった内容で判断してもらえたらと思う。大変難しい。

項目3 学校は、児童（生徒）が自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれる授業をしている

<南小教頭>

- ・市内全部でやっていることだが、全教員で学び合い学習を取り入れた授業を実践している。
- ・クラス内では小グループで自分の意見を発表する機会や友達の意見を聞く機会を増やしている。
学年に応じてではあるがそれぞれの発達段階に応じて積極的に自分の意見を言う

ということを意識させ、また聞くということも機会を増やすことで言いやすかったり聞くことができるようになったりしてきていると感じている。

- ・質問紙調査の結果で「課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをしっかりとてerようになった」児童の割合は、4年生、6年生は県平均を超えている。5年生は低かった。

<南中教頭>

- ・全教員で学び合い学習、これは鶴ヶ島市内で実践していることであり、南小中でも研究授業等に取り組んで実践している。
- ・各行事の企画・運営を生徒主体で進めていることについて、生徒が主語の教育活動ということを含言葉のようにして教員たちは一生懸命取り組んでいる。教員はほとんど手を出さず、生徒を前面に出してどんどん進めていくという取組がうまくいっていると思う。
- ・今年から文化祭をやったという話をしたが、生徒会長がぜひこういうことをやりたいという提案を職員会議に出した。それをもんで実現し、実際に生徒たちが全部進めていた。放送やアナウンスも全て生徒がやっているという状況。
- ・体育祭も合唱祭も実行委員会を作り生徒主体で進めている。
- ・質問紙調査の結果は「課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをしっかりとてerようになったこと」について、2年生だけ少し低いが1、3年生は県よりも高い数値となっている。

<会長>

学び合い学習について、他の小中学校と比べるとどうか、ということとはわからないか。

<南中教頭>

鶴ヶ島市内はこの学校も取り組んでいる。

<南小校長>

参考に、前任の市では学び合い学習も授業の中の一部ではあったがそれだけを取り出すということはなく、基礎基本が中心だった。

<南中校長>

前任の市では鶴ヶ島市のように市を挙げてやっていく、ということはなく、各学校に任されていた。鶴ヶ島市は進んでいると思う。

<会長>

メリット、デメリットについてどう感じているか。

<南中教頭>

発達段階に応じて学び合いも変わった方がよいかと思う。

学び合いをうまくもっていくためには基礎基本がある方が進む。基礎基本が身につ

いている生徒が先生のように教えることがメインになってしまうこともあり、課題である。

<会長>

そのへんは今後学び合いをうまく回していく上では少し課題になってくると考えられる。

項目 4 学校は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりする、授業を行っている

<南小教頭>

- ・ GIGA スクール構想で児童は一人一台学習用端末を使っている。
家でもできるように持ち帰りもしている。
- ・ オクリンクプラス、ジャムボード、スライドといったアプリを授業の中でこれまでのノートのような感覚で使って、考えを深めたり広めたりしている。
発達段階に応じてではあるが、高学年では積極的に使っている。
- ・ どの教科もタブレットと大型モニターを使って授業をしており、毎時間実践していてそれがあたりまえのかたちになっている。
- ・ 質問紙調査の結果は「話し合いや集めた資料から、自分の考えが変わったり、深まったりしたこと」が5年生、6年生は県平均よりも高い数値となっている。4年生は低い数値である。

<南中教頭>

- ・ 小学校と同じような状況であり、タブレットは文房具として毎時間のように活用している状況。ソフトは小学校と同じようなものを使っている。タブレットと大型モニターを毎時間どの教科も使っているということも同様。
- ・ 質問紙調査では1年生が若干低いが2年生、3年生は県平均を超えている。

<会長>

学習用端末を使うと考えが深まったり広がったりするということによいのか。

端末を使えば深く、広くなるという因果関係はあるのか。

アンケート結果からいえば80%くらいがそう答えているのでよしとして考えてよいのかとは思いますが。

<南小校長>

学活や道徳でジャムボードを使っているが、これまでのように学習用端末を使わないのであれば自分の考えを書いて手を挙げて発表した人の意見しか聞けなかった。

けれどもジャムボードであれば意見がどんどんスクリーンに表示されるので、あの子はこう言っている、ということが見てわかる。

手を挙げた児童だけでなく全員の意見などが見てわかるようになる。

<会長>

チャットみたいなものか。

<南小校長>

今までは手を挙げた子の意見しか聞けなかったものが見てわかる。

クラス全員の子供の考えが教員も分かるし子供たちもわかる。

周りの子供たちがどう思っているのかがわかるので学活や道徳で使っている。

<南中教頭>

中学校では各教科でオクリンクを同じような使い方をしている。

話し合い活動などタブレットを活用すると効率がいい。

<会長>

理解した。ジャムボードという用語の意味もわからなかったのだ。

<委員>

項目3、4について、中学2年生では数値が落ちている。

使う中で1、3年生との違いがあるのか？要因に思い当たるものはあるか？

<南中教頭>

予想ではあるが、今の中学2年生は新型コロナの影響が一番大きい世代であることが関係しているかもしれない。

<会長>

コミュニケーション等に影響を受けた人もいるのかも知れない。

項目5 学校は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、児童（生徒）の体力向上を図っている

<南小教頭>

- ・南小では校内研究の中で研究主題を『「主体的対話的で深い学び」の実現に向けて～学び合いの手法を生かし、思わず学びたくなる授業の工夫改善』として体育科で行っている。講師も招聘して授業研究を行っている。
- ・積極的に運動機会を増やすことや教員の体育授業における資質向上を積極的に行っている。

<南中教頭>

- ・教科として体育科がみているので、授業では工夫をしてやっている。
- ・体育祭は縦割りで実施しており、3年生が1、2年生を引っ張って運動への意欲を高めていると思う。
- ・中学校では運動部でがんばらせていることと、全校生徒から駅伝部を招集して意

識を高めている。明日体育の授業でも駅伝の取組でチームを作って競争するが、それにはどうしても出たいという生徒もいると聞いている。走るということから逃げずにがんばろうとする生徒が増えているように思う。

- ・ 昼休みに学年ごとに体育館開放も行っており、人気があって体育館が取り合いになっている。

<会長>

以前も聞いたかもしれないが、夏の暑さ対策はどうしたか。

<南中教頭>

- ・ 授業においては熱中症の暑さ指数について市から警告アラームの配布があり、ここまでいったら中止といった目安を作って取り組んだ。
- ・ 部活では水分補給、休憩、部活終了後クールダウンしてからの下校などで対策した。

項目6 学校は、児童（生徒）の生活指導上の課題等に対して、組織的に家庭等と連携・協力しながら対応している

<南小教頭>

- ・ 児童の情報を職員全体で共有する場として毎週月曜日の放課後の職集で共有している。
- ・ 児童理解会議として月一回、もう少し長い時間を確保してより深い共有をすることや共通行動ができるようにするための会議の時間を設定している
- ・ 保護者面談の際には職員が複数対応している。
- ・ 児童情報を共有するためにPC上のデータも使って連携、共有している。

<南中教頭>

- ・ 年三回二者面談、三者面談を実施している。今年度は先ほども言った通り担任以外の教員が面談を行うことも行っている。
- ・ タブレットを使ったいじめアンケートの常時開設は南小学校から提案された。次の項目7に入れたが生徒指導部会というものを毎週行っている。この生徒指導部会の際に協議し、南中も協力していこうと南小発信で始まったことである。
- ・ いじめが起こったときは生徒指導部会がいじめ対策委員会に変わり、そういった組織的な取組を行っている。

<会長>

P T Aの方々に伺いたいですが、家庭等と連携・協力の実感はどのくらいあるか。

<委員>

中学校では連絡帳がないので PTA 活動で先生に直接会ったときに情報を得ている。

<委員>

- ・連絡ノートや、何かあったときは個別の電話連絡ももらえるのでリアルタイムで連絡をいただけたりする。ありがたいと思っている。
- ・タブレットを活用したいじめアンケートの常時開設は子供もそうだが親が自分の子供の変化など何か気づいた時にも活用できる。
ただ、タブレットからだけだと子供のタブレットを使ってということになるので子供の目に触れてしまう可能性がある。
子供も親には本音を話す先生には言わないで、ということもあるので、子供のタブレットを使ってということだとなかなかタイミングが難しいかと思ったりもする。
C4thの活用やほかの方法もあれば保護者が何か見た、聞いたというときに学校に連絡がとりやすいかと思う。

<委員>

不登校の現状について、この1年間でどうなったかなどはわかるか。

<南中教頭>

- ・1年生は入学時から学校に来られないという1名を除いて、その他の不登校傾向だった子は解消している状況。
- ・2年生は多い状況だったが、クラスの中には戻りきれてはいないが、はばたきルームというスペシャルサポートルームを使って5名中3名はそこに来られるようになっており解消傾向といってよいと思う。

<南小校長>

- ・全体としては変わっていない。
- ・チャレンジルーム利用は昨年度延べ10数名関わっていたところから今年度は3名になった。そのうち2名は教室へ行けるようになってきている。
- ・基本的には減ってきているという感じはしている。個別の対応は継続している。

<委員>

- ・チャレンジルームがあると、学校には行けても教室に入れない、学校に入るハードルが高いというときに、保健室やチャレンジルームというワンクッションを挟むことはありがたかった。
- ・働いている親も多い中で、時間に追われて親もいらいらしてしまう。仕事に行かなければならない気持ちの中で、先生たちが「大丈夫ですよ」と声をかけてくれて「一回チャレンジルームに行こうか」とワンクッション挟んでもらえることは自分としてはありがたかった。
そこでも難しくて廊下で過ごす場合も南小では必ず先生が付き添って声をかけてくれ、その子に合わせてどこで過ごすか提案してくれている様子を目の当たりにした。課題は根深いが南小中は体制はあると思っている。

<委員>

カウンセラーも増えて二人体制か。

<南小教頭>

週三回が市費のカウンセラー、県費が週に一回。

<委員>

カウンセラーへの相談件数は増えているのか。

<南小校長>

予約はいっぱい入っている。長欠等と関係なく保護者が相談したいということでより専門的な方のところに電話して、というかたち。

<委員>

面談は子供の話を聞いてくれる場でもあるが、親をサポートするという部分での活用も大きかった。そういった情報がもっと親の手元に広がったらよい。

困ったときにどうしたらよいか、特に一人目の子供の時は親自身も八方ふさがりになる悪循環になることがある。

そういったときに親も相談してよいというアナウンスをしてもらえるとまた違うかなと思う。

項目7 学校は、児童（生徒）のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている

<南小教頭>

- ・年間5回学校生活アンケートを行っている。
- ・年2回5、6年生を対象に「よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート」としてハイパーQ Uという専門的なアンケートを実施している。これは市内統一で行っている。
- ・また、タブレットを使用した常時相談できるいじめ相談フォームを64thのクラスルームでできるようにしている。悩みを素早くキャッチできる体制にしている。
- ・質問紙調査結果の「学校の先生たちは自分の悩みの相談にのってくれましたか」では5年生、6年生は高い数値で出ている。

<南中教頭>

- ・年度当初に生徒と教員で二者面談を実施している。
- ・ハイパーQ Uは南小も言っていたように市で統一して年2回実施して、要支援という振り分けがされた生徒について教育相談部会で検討して見守っている。
- ・夏休みには教育相談の研修も行っている。
- ・質問紙調査の結果では3学年とも県の数値を上回っている状況。

<会長>

質問が似たような傾向に感じられる。

項目 8 学校は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、子に応じた指導方法を積極的に取り入れている

<南小教頭>

- ・教育相談日を年間6回設定しており、家庭と連携協力する機会を設けている。
- ・ことばの教室、すくすく教室、チャレンジルーム、なかよし学級など個に応じた指導ができる場の提供として、自校でこれらの教室を積極的に取り入れている。なかよし学級も多くなって4クラスある。
- ・英語、理科、それから音楽も教科担任制を導入している。
- ・4、5年生は算数と国語のTT授業を実施している。個に応じた指導ができる機会を増やしていく。
- ・質問紙調査結果では5年生が特に高く出ている。

<南中教頭>

- ・何度も登場してくるが、年三回の二者面談、三者面談を実施している。
- ・数学、英語、理科ではTT、チームティーチングの授業を実施している。
- ・数学では学力向上プロジェクト教員の配置を受けており、ほぼ全授業でTT、あるいはクラスを分けた少人数授業を実施している。
- ・数学では単元内自由進度学習というものも行っている。子供たちが自分の進度に合わせて進めていき、先生が回って見守り、アドバイスしながらやるという授業も行っている。その中でも学び合い学習も取り入れているという試みである。
- ・はばたきルームというスペシャルサポートルームを開設している。ここでも必ず教員を一人配置して、生徒と相談しながら授業を行うこともある。
- ・質問紙調査の結果では1年生と3年生は県を上回っているが、2年生は下回っているという状況。

<会長>

- ・項目が似ている。
- ・項目9は各自で考えていただければと思う。
- ・項目10は委員がそれぞれ接している子供についてでよいと思う。
- ・項目11、12はご自身の立場で評価してください。
- ・全体を通して、項目は多いがやっている施策は学び合いやタブレットといったものに落ち着くと感じている。
- ・お帰りの際に提出お願いします。

連絡事項

<委員>

○松ヶ丘フェスティバル

- ・雨の中の実施となり、南中学生のボランティアはキャンセルした。
- ・およそ4、500人の参加があり、ゲームは集会所内で実施した。
- ・雨の中でもやることができたことは貴重な体験だが、来年は晴れた日にやりたい。

○かわつるだんちフェスタ

- ・地域の賑わい、活性化を目指してURでも初めての実施となる。
- ・改装したキッズルームを使って子育てサポート事業をやるはずがあまり使われておらず、周知するためでもあるようである。
- ・3か所でイベントをやる。
- ・地域ボランティア、社協にもお願いしているが、ぜひ学校にもPRをとのことで本日チラシを持ってきた。内容は小学生や小さい子向けだと思う。
- ・小学校への周知の仕方についてあとで聞きたい。

<委員>

- ・健全育成では来週土曜にわいわいがやがや祭。
中学生のボランティアは36名参加予定。吹奏楽部も出演。
- ・例年中学生が力を発揮してくれて子供たちも喜んでいるので、今年も子供たちに参加してもらえよう周知お願いしたい。

<会長>

- ・学校再編についてはまだ先の話でもあり、なかなか着手できないと思う。
- ・3年前の学校運営協議会では何か特化した学校がよいという声があった。
- ・2年前は不安な点についてお聞きして、設備的な問題やクラスが少ないことで取り残されてしまうのではという危惧の声があった。
- ・去年は坂戸市の城山学園に視察に行った。
- ・今年度は三鷹市に視察に行ったが、そちらは学校運営協議会の進め方がメインであって、小中一貫の情報は得られていない。これからも進めていきたい。
- ・今年度駅伝で全国大会に出場する藤中の駅伝部は80名程と聞いている。
再編後は鶴中、藤中、南中となる。
個人的なイメージとしては伝統の鶴中、充実の藤中。この二校は5、6クラスあるが南中は2クラスが続く。取り残されるといった不安も出てくる。
- ・そうしたときに、学校評価や授業の参観から、もっと別の切り口でこの学校を育てて考えていく意見があればこれから作っていく参考になるのではないかと話聞いていきたいと思う。
- ・次回は2月18日に南小学校での開催です。

以上で学校運営協議会を終了いたします。ありがとうございました。